

勤務医の労働条件—産婦人科医の立場から—

越谷市立病院

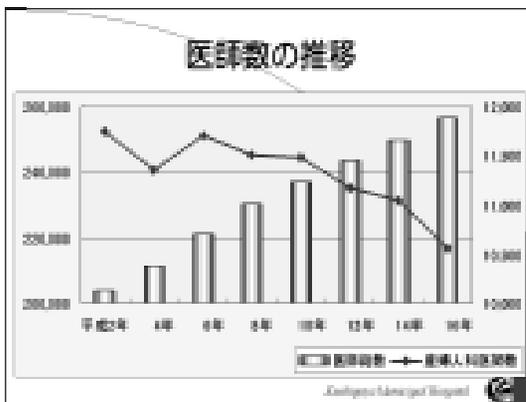
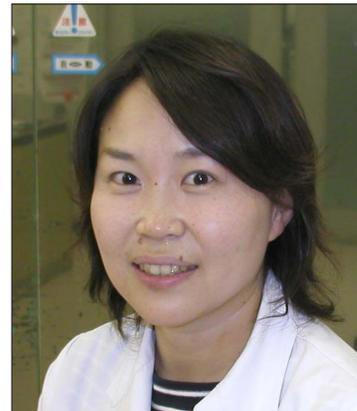
依田綾子

越谷市立病院産婦人科の依田と申します。



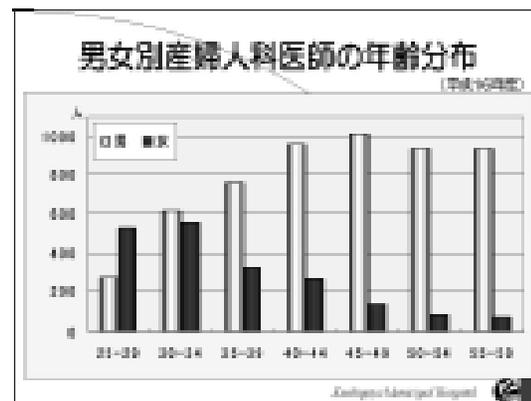
(スライド1)

近年、産婦人科医師の減少が指摘されております。このような環境下においては基幹病院においても医師不足が顕著となり、分娩だけでなく、婦人科診療も停止せざるを得ない現状に直面しております。そこで、いかに医師の精神的、肉体的負担を軽減し、患者のニーズにこたえる医療を提供すべき改革を行うかが緊急の課題となっております。



(スライド2)

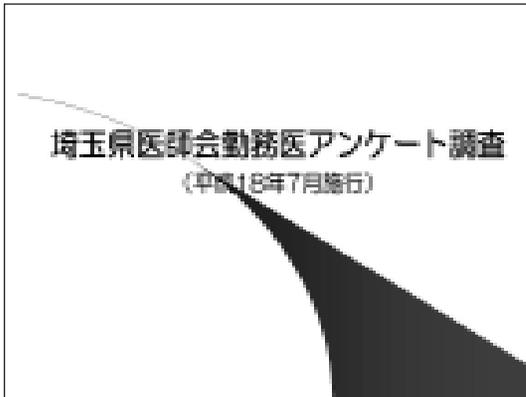
近年の医師数の推移を示しております。棒グラフで示してある総数は増加傾向にありますが、線グラフで示してある産婦人科医師数は顕著な低下を示しております。



(スライド3)

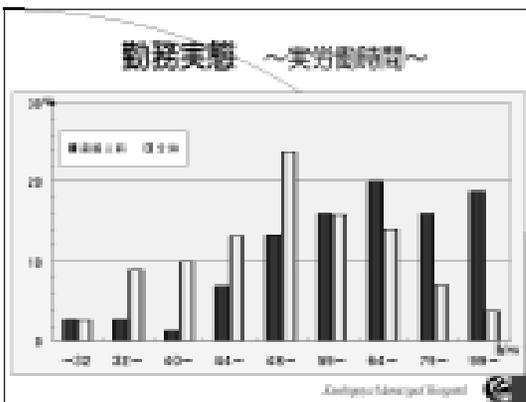
産婦人科医師の年齢別男女分布をみますと、女性医師が増加傾向にあります。ことに卒後10年以内の女性医師の割合が顕著に多く、ここ数年の間は女性医師が男性医師を上回る状態になっております。

決してマンパワー不足になるというわけではなく、25～35歳の間には妊娠、出産、育児といった女性特有のイベントがどうしても起こりますので、その間にノルマ分の当直ができなかったり、勤務時間の制限があったり、妊娠中は長時間のオペに入れなかったりと、ほかの先生に負担を強いているのも現実だと思います。



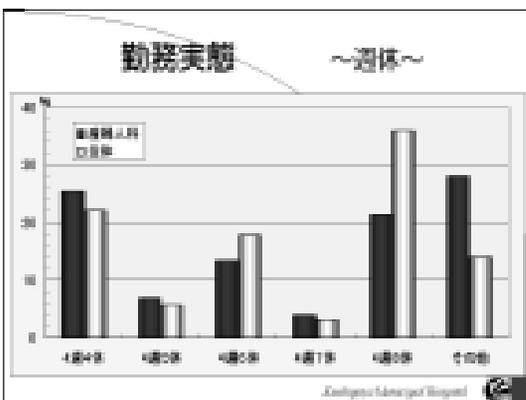
(スライド4)

埼玉県医師会で行ったアンケート調査結果を報告します。



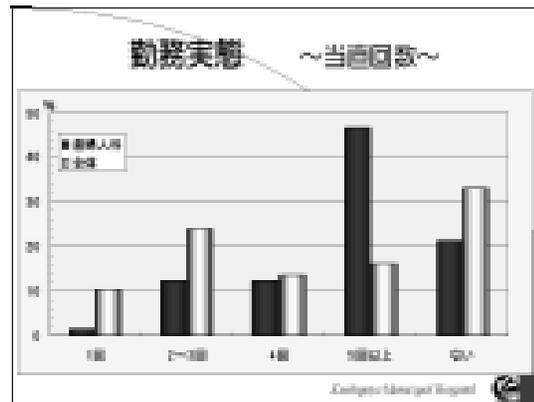
(スライド5)

産婦人科医師75名から回答を得ており、実労働時間を示しています。結果は64時間、70時間を超える超過労働を余儀なくされている医師がほとんどであります。当直が含まれているのだと思うのですが、90時間以上働く医師が断トツ多いというのが現状です。



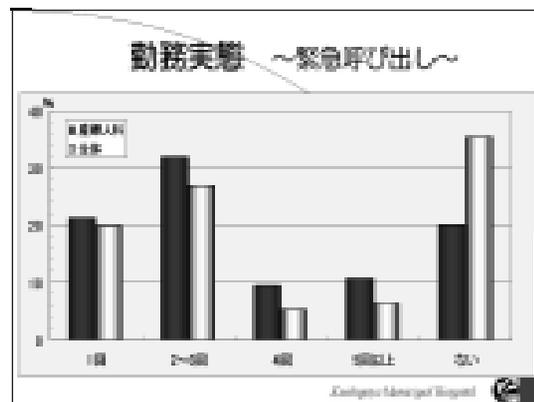
(スライド6)

週休に関しては大きな差はありませんが、しかし、“その他”に含まれるのは、恐らく1カ月間に1日ないし2日しか休みが取れないケースだと思われますが、産婦人科医師はほかの医師と比べて多い傾向にあります。



(スライド7)

当直回数は月に5回以上が断トツ多いわけですが、実施は10回、15回といった回数の当直を行う医師も少なくないと考えます。



(スライド8)

“緊急呼び出し”とは、担当の患者様が急変したときに呼び出されるケースもちろんありますが、それ以外にも外科系の体制はほとんどそうかと思うのですが、当直医師とオンコール医師を毎日当てております。帝王切開や、子宮外妊娠といった緊急の手術が必要な場合は、オンコール医師が駆けつけて手術に立ち会うというのが、大体月に2、3回あります。

(スライド9)

まず産科医療圏を設けるといふこと。具体的にい

いますと、人口30万人から100万人をめどにした医療圏の中に24時間救急に対応できる中核病院を整備するということ。



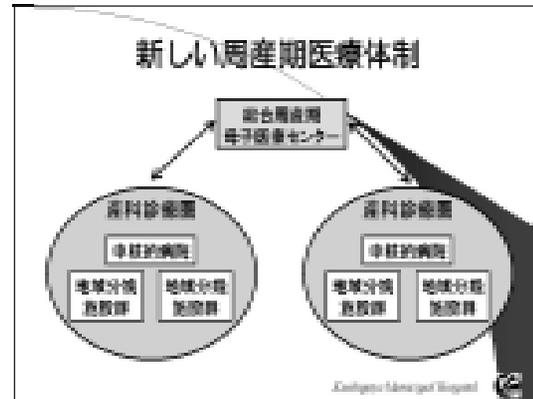
(スライド9)

第2に出産を扱う全施設で診療実績などを公表する。というのは、どれぐらい分娩をしていて、どれぐらいの緊急時に対応できるかというのももちろんですけれども、当然産科診療となりますと小児科医師、麻酔科医師がいかに迅速に対応していただけるかということも含めて公表をするべきではないかという提言があります。

第3に出生を扱う全施設で急変時に30分以内に帝王切開が行えるという体制が原則で整備されているということ。先日、奈良の方でそういった事態が起こって母体の搬送の行き先がなくて、お母さんが亡くなってしまったという事例がありましたけれども、やはりそういったことというのは結果が悪いからあれほどマスコミでも騒がれているのですが、実際現場で私が母体搬送依頼を受けているケースでも、救急隊の方が、もう先生のところで20件目なんですとか、切実におっしゃられて受けているのが現状で、氷山の一角ではないかと思います。

(スライド10)

産科診療圏の模式図になるのですが、産科診療圏の中に分娩施設、地域の診療所があって、何かがあったときに中核病院に依頼するというような形をとることです。この中の形もさまざま、オープンシステム、セミオープンシステムといった分娩施設では妊婦健診のみを行って、分娩を中核的病院で行うといったものから、すべて中核的病院で妊婦健診



(スライド10)

を行ってしまおうという体制まで、いろいろな幅があると思います。越谷市立病院での産科診療の実態は、午前中の限られた時間で40名から50名ほどの妊婦さんを診ている状態で、患者さんのニーズにこたえられているかどうかというのを疑問に思う次第です。これは私個人の意見でもあるのですが、可能であれば地域の分娩施設で妊婦健診を受けていただき分娩をこちらでというものの考えの1つではあると思います。



(スライド11)

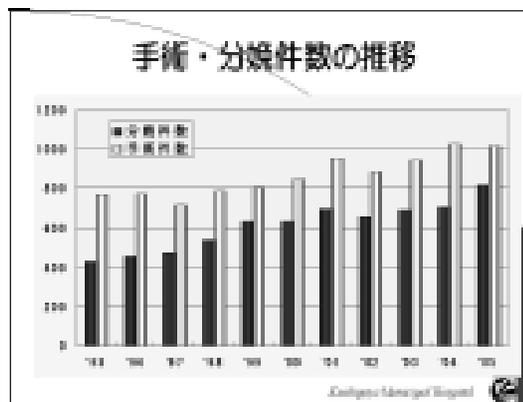
こちらは、越谷市立病院の全景になるのですが……、

(スライド12、13)

救急外来を受診される患者さんの割合ですが、年間で約2万2千件受けております。やはり小児科の割合が40%以上を超えており、大変夜は忙しく診療されているのをよく見ております。続いて、内科、外科系となって、婦人科は6%にとどまっております。

(スライド 14、15)

当院の近年の分娩件数及び手術件数の推移ですけれども、分娩はじわじわとふえてきて、現在は800件を超えています。手術件数も少しずつふえており約1,000件になっております。ことしはもう2006年10月の時点で1,000件を超えております。

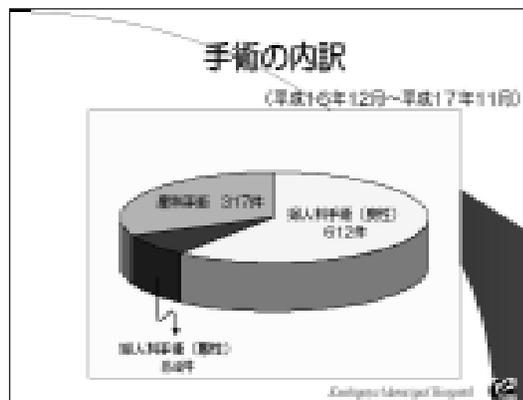


(スライド 15)

越谷市立病院の概要

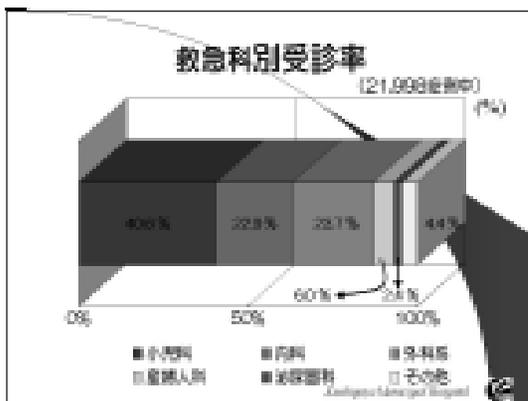
- 越谷市立病院は埼玉県の東部に位置し、市民の健康安否を司るために、地域医療の基幹病院として一般医療はもとより、救急・高度先進医療等を柱に運営されている
- 開 院：昭和51（1976）年
- 診療科目（19科）
 - 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、臨床検査科
- 許可病床：一般病床481床（平成10年新築増設）

(スライド 12)



(スライド 16)

手術件数の内訳ですけれども、婦人科、良性疾患612件、悪性手術が84件、産科手術が317件行っております。



(スライド 13)

緊急手術 (319件)

● 産科疾患	243 (76.2%)
- 帝王切開	108 (33.9%)
- 子宮切除術	31 (9.7%)
- 胎盤、子宮外妊娠、中絶	93 (29.2%)
- その他	11 (3.4%)
● 婦人科疾患	76 (23.1%)
- 卵巣腫瘍摘除術、摘出	14 (4.4%)
- ブローパブラス	41 (12.9%)
- その他	21 (6.6%)

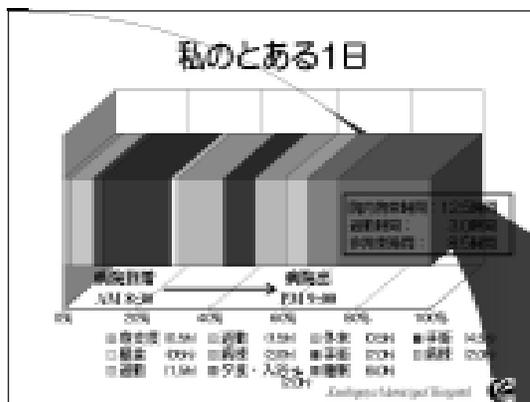
(スライド 17)

緊急手術が1年間に319件ありました。内訳は、産科の帝王切開が一番多く108件。単純計算で3日に1件ぐらいの計算になります。

当院産婦人科の紹介

- 常勤医：8+1（産科研修医）名（5名は大学より選30名1名の非常勤医を付随）
- 病床数：産科25床、婦人科38床、NICU6床（NICU科）
- 年間分娩数：8177件（内帝王切開176件）
- 年間手術件数：1013件（緊急手術319件）
- 外来診療（1日当たり）：初診95名、再診109名

(スライド 14)



(スライド 18)



(スライド 19)

産科診療圏の設定による周産期医療の集約化が必要とされていますが、それだけでは地域のニーズに必ずしもこたえられるとはいえないと思います。

また、周辺の地域医療機関との間でオープンシステムや、セミオープンシステムの体制を構築することに患者及び地域の医療とのコミュニケーションをより深めていくことが極めて大切であると考えております。